

「千の風になったじーじ」

埼玉県 上野愛海

私のおじいちゃんは平成十二年に亡くなりました。私が幼稚園の年長の時です。おばあちゃんから

「じーじが倒れた。」

と連絡があり、お母さんと一緒に慌てて佐渡島の病院へ急ぎました。じーじは今まで見たこともない変わり果てた姿で白いベッドの上で酸素マスクをして眠っていました。それから毎日お母さんと車の中から山に向って、「じーじ頑張れ。」と声が枯れる程、叫びながら病院へ通いました。早く治って欲しいと願いを込めて千羽鶴も折りました。でも四十八日間、意識は戻りませんでした。

じーじ。「千の風になって」知ってますか。この歌詞を聞く度に、じーじの事を思い出します。じーじも千の風になって大きな空を、吹き渡っていますか。空の上は気持ちが良いですか。愛海の姿が見えますか。何も話せないまま逝っちゃったね。じーじが亡くなってからはばーばは寂しさのあまり、認知症になっちゃったよ。信じられないでしょ。あんなに元気一杯だったばーばが今では寝た切りになり食べる力も無くなり、言葉も出なくなった。ばーばはとっても悲しかったんだよ。もう、愛海のことも分からなくなっちゃったんだよ。約束したのに。「絶対愛海のことは忘れないんだ。」って。でも心配しないでじーじ。愛海はばーばの心は苦しみのトンネルを抜けて、大きな空へ羽撃いて行ったと思う。青い空だね。そこにはじーじの風が吹いているといいね。愛海はもう中学一年生になったんだよ。卓球部の活動も頑張っているよ。楽しみにしてくれていたランドセル姿も見てもらえなかったけど、愛海は頑張って優しく強い人になるよ。空から見守っていてね。そして応援してね。愛海も悲しいことがあったらじーじの風を感じるよ、きっとね。千の風を聞くと自然と涙が出るよ。涙が出るけど前を向いて明るく頑張るよ。だって、じーじの風が背中をいつも押してくれるのだから。